協議会資料

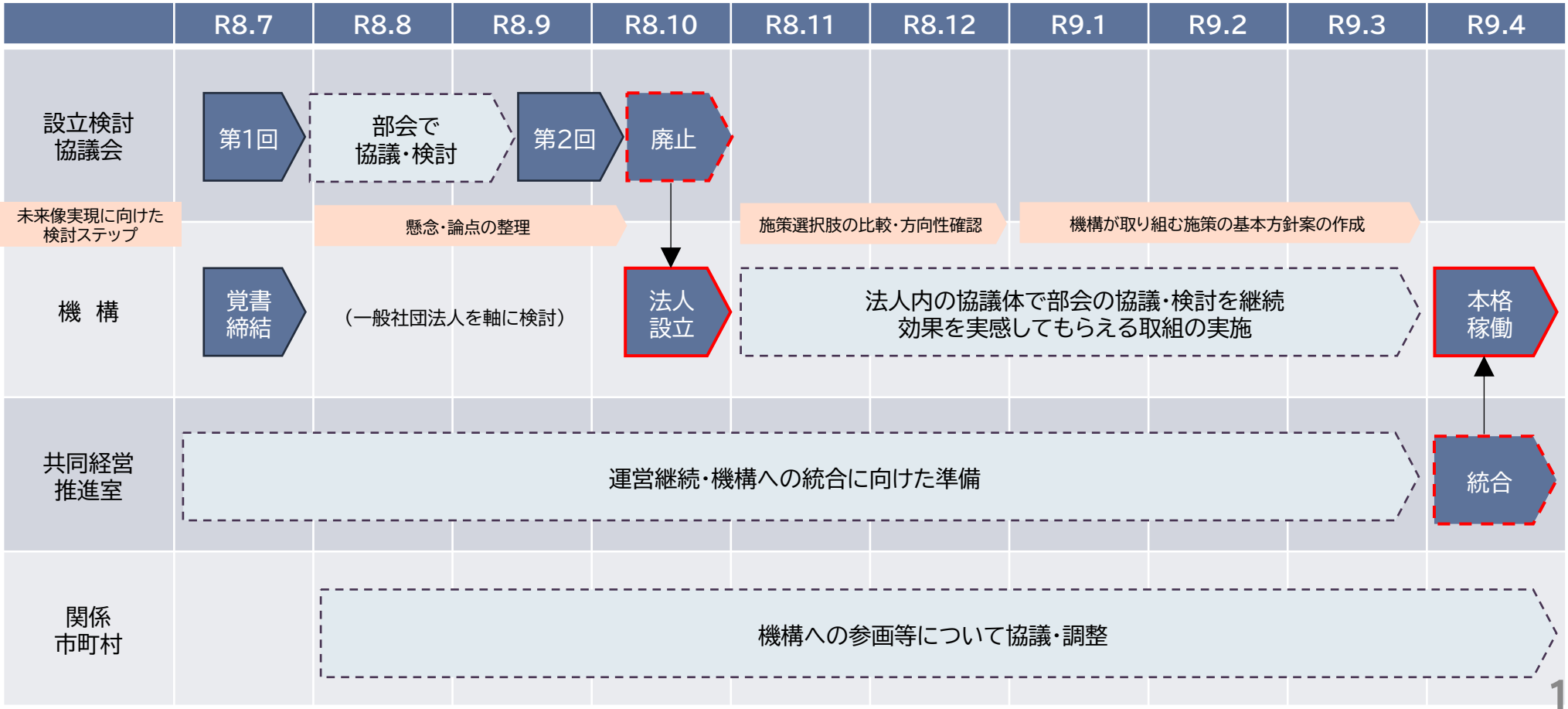
熊本交通機構設立スケジュール

○ 設立検討協議会については、今後、熊本交通機構の法人設立に向け、各部会において協議・検討。

○ 熊本交通機構については、10月に法人化、以降、組織・ガバナンス・サービス内容等についての協議・検討を通じ、翌年4月の本格稼働を目指す。

○ 共同経営推進室については、今年度中は運営を継続し、機構の本格稼働に合わせて統合する想定。

○ 関係市町村については、今後、県とも連携しながら、機構への参画等について協議・調整を行っていく。



熊本交通機構への参画団体

熊 本 市

熊 本 県

九州産交バス

産交バス

熊本電気鉄道

熊本バス

熊本都市バス

地域交通ホールディングス

熊本市交通局

チャリチャリ

部会メンバー

熊本交通機構設立検討協議会

①サービス・運行計画部会

【主な役割】

・路線再編　・運行頻度　・ダイヤ　・乗務員や車両の共有化
・運賃制度　・運行効率化　・必要コスト算出　　など

	団体名	所属・役職
部会長	ー	共同経営推進室長
副部会長	熊本市	公共交通推進課長
副部会長	熊本県	公共交通強化室長
	九州産交バス	営業部長
	産交バス	営業企画部長
	熊本電気鉄道	乗合事業部長
	熊本バス	管理課長代理
	熊本都市バス	管理本部部長
	地域交通ホールディングス	取締役
	熊本市交通局	運行管理課長
	チャリチャリ	公共政策部長
オブザーバー	九州運輸局	交通企画課長
オブザーバー	九州運輸局	旅客第一課長
オブザーバー	九州運輸局 熊本運輸支局	首席運輸企画専門官

②組織・ガバナンス部会

【主な役割】

・法令整理　・組織形態　・ガバナンス　・議決権　・役割分担
・財源確保　・事業者への配分方式　など

	団体名	所属・役職
部会長	熊本市	公共交通戦略課長
副部会長	ー	共同経営推進室長
副部会長	熊本県	公共交通強化室長
	九州産交バス	営業部長
	産交バス	営業企画部長
	熊本電気鉄道	自動車事業本部長
	熊本バス	自動車部次長
	熊本都市バス	管理本部本部長
	地域交通ホールディングス	取締役
	熊本市交通局	総務課長
	チャリチャリ	公共政策部長
オブザーバー	九州運輸局	交通企画課長
オブザーバー	九州運輸局	旅客第一課長
オブザーバー	九州運輸局 熊本運輸支局	首席運輸企画専門官

熊本交通機構の基本方針（案）

1. 地域社会の成長を支える未来への投資

・公共交通を都市の重要インフラとして位置づけ、サービス水準を確保
・赤字補填型の支援から、地域住民の生活の質を高めるための投資へとシフト

2. 誰もが利用しやすい一体型の交通サービスの提供

・ドア to ドア を基本としたインクルーシブなサービス設計
・シームレスな運賃制度 ➤ 共通運賃・共通アプリ
・シームレスな結節環境 ➤ 待たずに乗り継ぎ・信用乗車

3. 公共交通の専門組織としての実行力強化

・専任職員配置による交通政策、路線設計、ダイヤ、運賃、財源、データ分析等における専門性の向上
・データに基づく施策立案、他分野（道路整備等）との連携の強化

4. リソースの最適活用

・限られた経営資源下における必要な路線・時間帯への人員と車両等の適正配分
・車両、車庫、整備工場、決済システム等の共通化・共有化等による合理化
・共通業務（人材確保、プロモーション等）の集約による効率化

公共交通を「地域を支える公共サービス」へ

熊本交通機構における当面の取組

利用者目線　熊本交通機構の取組を通じて、利用者に「便利になった」、「普段から使いたい」と感じてもらえる公共交通を目指す。

現在の利用者の声	・停留所で長時間待つ ・便を逃すと、次の便がなかなか来ない	・目的地への到着が遅い	・交通モードによって、別の種類の定期券が必要	・どの乗り場から乗ればいいかわかりにくい ・どの便に乗ればいいかわかりにくい ・料金がわかりにくい
目指すこと	待ち時間が短くなった	到着が早くなった	乗継ぎやすくなった	乗車がわかりやすくなった
取り組むこと	**バスの増便・路線維持** ・運転士確保 ・幹線増便 ・支線の維持	**バス快速便の導入** ・混雑ルートの回避や乗降場所の絞り込み ・P&R等との連動により快速便の効果を拡大	**共通定期の機能強化** ・１つの定期で異なるモードを利用可能 ・同一運賃区間内なら、すべての路線で乗車可能	**情報の一元化** ・異なるモードの時刻表や運行情報をアプリ等で一元化 等 **停留所の案内改善 等** ・同名称で、離れている停留所の案内改善 等 **運賃体系の再構築** ・わかりやすい運賃体系の実現

課題：リソース不足（大型車両の運転士不足）

課題：事業者間の調整

上記施策の実現に向けて、運転士の確保並びに路線再編等に一体的に取り組む

●運転士確保に向けた取組（事業者間連携）
- 多様な人材の活用、柔軟な勤務体系の導入支援
- 採用活動における連携、人材バンクの設置

●交通モードの再編
- ダウンサイジング（中小型化）により路線を維持
- デマンド交通等へ転換することで地域交通として維持

●ダイヤの見直し
- 需要に応じた便数調整
  ※路線・ダイヤ等検討システムの導入
- 新規拠点の活用による回送効率化など

熊本交通機構の設立を契機に上記取組の検討を加速し、利便性の高い公共交通の実現を目指す